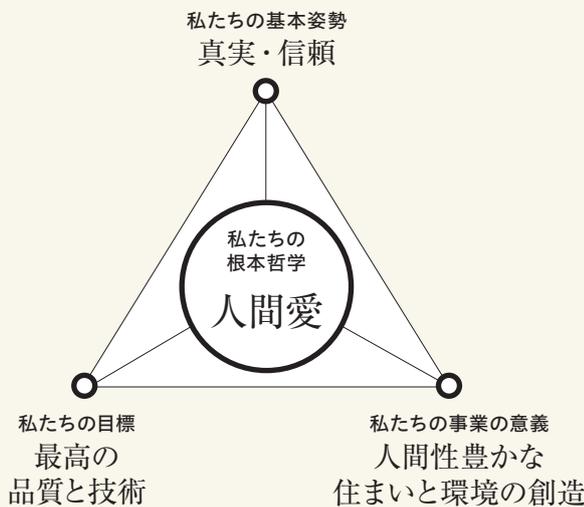


「人間愛」から「4つの価値」を創造

積水ハウスグループは、企業理念「人間愛」を礎に社会の変化やニーズに即応し、価値を創造・提供してきました。2005年に定めた「4つの価値」と「13の指針」からなる「サステナブル・ビジョン」は今も価値創造のベースであり続けています。その根底には、「生涯幸せに暮らすもの」「お客様の生命と財産を守るもの」「地球環境を保護し、生態系を生かすもの」といった、60年の歴史の中で刻まれた「住まいのあり方や役割」に対する哲学が息づいています。

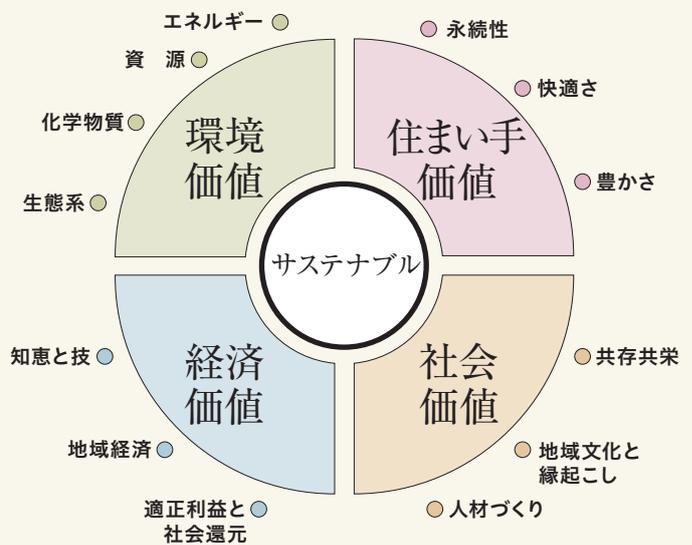
企業理念(根本哲学「人間愛」)

「人間は夫々かけがえのない貴重な存在である」という認識の下に、相手の幸せを願い、その喜びを我が喜びとする奉仕の心をもって何事も誠実に実践する事である」という「人間愛」を根本哲学としています。全従業員での討議を経て、1989年に制定しました。



「4つの価値」に基づく「13の指針」

2005年、「4つの価値」によるバランスのとれた経営を目指す「サステナブル・ビジョン」を発表。その行動指針となる「13の指針」を2006年に策定しました。



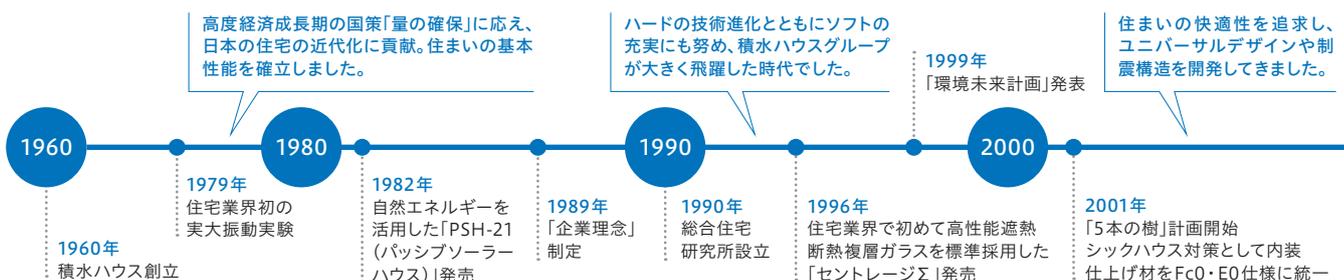
「安全・安心」の時代

直接契約・責任施工という他社にはない体制をつくり上げ、高品質・高性能かつ安全・安心な住宅づくりを追求しました。誰もが一生、快適で幸せに生きられるようにと考え出されたのが、1989年の「生涯住宅」思想。これらが企業理念「人間愛」の原型であり、脈々と息づいて現在の「幸せ」のベースになっています。

「環境」「快適性」と「サステナブル」の時代

住宅を供給する企業として「環境」を大きな戦略として打ち出し、1999年に業界に先駆けて「環境未来計画」を発表。2005年には、地球生態系本来のバランスを基本とし、将来にわたってすべての人々が快適に暮らせる社会こそが持続可能(サステナブル)な社会であるという明確なビジョンを定め、「サステナビリティ」を事業活動の基本と位置付けて社会に発信しました。

積水ハウスの取り組み



安全・安心(第1フェーズ)

快適性(第2フェーズ)

し、持続可能な経営を推進

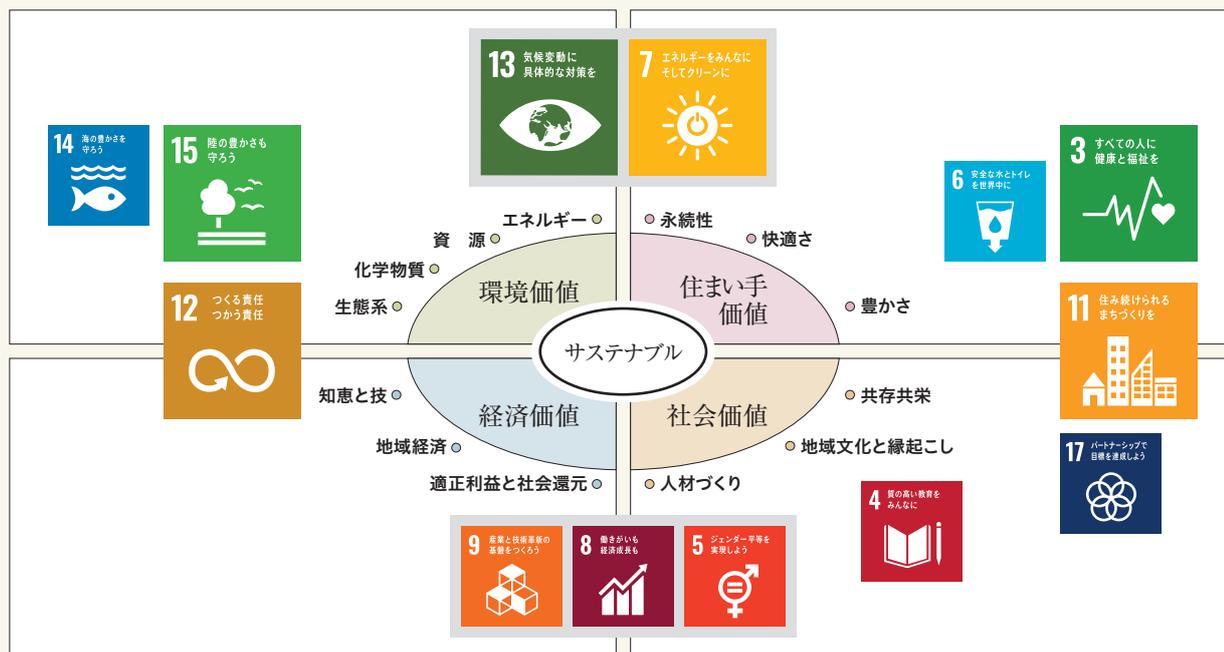
「4つの価値」と「13の指針」とSDGs (事業を通じた直接的・間接的な寄与項目)

積水ハウスグループは、国連でSDGs※が採択される10年前に「サステナブル・ビジョン」を宣言しました。SDGsは2015年、社会・経済・環境面における国際社会共通の目標として採択されたものです。「サステナブル・ビジョン」で「4つの価値」と「13の指針」を定めた当社グループは先駆的に「持続可能性」に正面から向き合い、実践してきました。

今後、社会課題はグローバル化や一層の複雑化が予想されます。課題解決にはSDGsの推進や、IoT、AIを活用して最適化された未来社会 Society 5.0の実現がますます重要になります。

これからも価値向上に着実かつ革新的に取り組み、ビジネスを通じてSDGsの目標達成に寄与していきます。

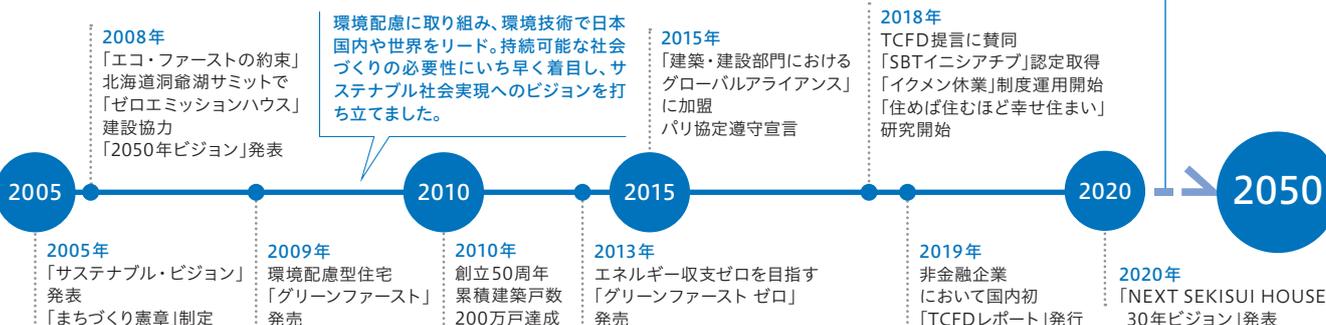
※Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称



ビクトグラムの大きさと当社グループの「4つの価値」とのかかわり度合いを概念的に表現しています。

「人生100年時代の幸せ」へ

積水ハウスが60年かけて培ってきた「人間愛」「サステナブル・ビジョン」における「4つの価値」と「13の指針」にSDGsを加えた理念を軸に、これから創造していくのが「人生100年時代の幸せづくりのパートナー」という新しい価値です。「幸せ」「健康」をキーワードに新たなチャレンジに取り組みます。



人生100年時代の幸せ(第3フェーズ)